

周防亮介さん応援レポート

絹谷幸二展に寄せて Art et Music 平和の響き har.2

2017年9月30日(土)
京都国立近代美術館

美術館でのミュージアム・コンサート



演奏時の写真ご提供: 東京音楽大学

9月30日(土)に開催された「絹谷幸二展に寄せて Art et Music 平和の響き har.2」。周防亮介さんの演奏を聴いてきた。

コンサートの会場は京都国立近代美術館。美術館としても初めての試みという、ミュージアム・コンサート。

洋画家絹谷幸二氏の展覧会が開催されている期間、絹谷氏の公開制作や、絹谷氏を講師に迎えてのトークショーに加え、「美術と音楽の融合」を模索すべく、さまざまな関連イベントが企画されている。音楽関連のイベントも多く、これまでもピアニスト・仲道郁代氏やヴァイオリニスト神尾真由子氏のリサイタルなどが行われてきた。

当日、周防さんが出演したのは、東京音楽大学現役生および卒業生による演奏会。平和をテーマとした企画であった。

周防さんの地元でもある京都。すでにたくさんの方々が集まってくださっている。



濃密なプログラムに気持ちを込めて



演奏会は、絹谷氏のお話でスタート。「…音楽は耳で、絵画は目で。アートというのは耳から、目から、脳に届く人間のささやきです。…いろいろなジャンルの方々とコラボレーションすることで、新しい門出、新しい時代を作っていきたいと思っています」。

当日のメンバーは、周防さんが在籍する東京音楽大学の現役生・卒業生。管弦楽を担うのは東京音楽大学のみなさんから成る「癒しの森おーけすとら」、指揮は西口彰浩氏。

全5曲のプログラム。ヨハン・シュトラウスⅡ世の「美しき青きドナウ」でスタート。ピアノ。ソリストとともにラフマニノフの「パガニーニの主題による狂詩曲」と続いて前半終了。

周防さんは休憩後の後半に登場。3曲を披露して後半を飾る予定だ。

最初の曲は、周防さんが「とても好きな作曲家」だというヴィエニャフスキの「スケルツォ・タランテラ」。緩急のメリハリ、強く太い音色。技術の確かさもしっかりと、たくましく。

続いてショーソンの「詩曲」。オーケストラとの息もぴったり、美しい旋律を情感たっぷりと。ラストの曲は、ふたたびヴィエニャフスキで「華麗なるポロネーズ第1番」。ファンファーレで軽快に始まり、テンポよく、はずむような、見事な演奏。

全3曲、周防さんの持ち味ともいえる、力強くエネルギッシュな演奏に、優しさや柔らかさが溶け合ったような、気持ちのこもった熱い演奏。色彩感のある美しい音色が美術館のホールいっぱい響き渡った。



演奏時の写真ご提供：東京音楽大学

3日後には留学先のスイスへ



終演後の全体写真
(写真ご提供:東京音楽大学)

留学が決まり、このコンサートの3日後には出発の予定の周防さん。

「・・・お世話になった先生方や先輩方、仲良く学んだ仲間達へ『感謝の気持ちを込めて』」の演奏だったそうだ。

10月からの留学先はスイスのメニューイン国際音楽アカデミー。
『100年に一人の天才』と称されたマキシム・ヴェンゲーロフ氏にお誘いいただいたの留学とのことで、「・・・不安もありますが、先生のレッスンを受けるのがとても楽しみです」と、新たな環境での生活に馳せる思いを話してくれた。

次回の帰国は、ソロでのリサイタル(オール無伴奏)が予定されている11月。
きっと、さらにたくましく、美しい演奏を聴かせてくれることだろう。

周防さん、素敵な演奏でした。

そして、留学決定おめでとうございます！また聴かせてください！

<演奏会概要>

◆出演

ピアノ:秋元一夢

ヴァイオリン:周防亮介

指揮:西口彰浩

オーケストラ:癒しの森お一けすとら

◆プログラム

ヨハン・シュトラウスⅡ世:美しき青きドナウ

S. ラフマニノフ:パガニーニの主題による狂詩曲

H. ヴィエニャフスキ:スケルツォ・タランテラ

E. ショーソン:詩曲

H. ヴィエニャフスキ:華麗なるポロネーズ 第1番

